

⑬外科系 6

(整形外科)

1. 研修目標

整形外科(運動器疾患)に関連した主要疾患の診断と治療に必要な基本的知識や技術及び全身管理の基礎を修得し、患者の円滑な社会復帰のための総合的な管理計画のための知識を修得する。救急患者に対する適切な救急処置および整形外科的な処置の実際を学ぶ。

2. 研修指導體制

- (1) 整形外科の各診療班の一員として病棟及び外来の仕事に従事し、各診療班の教官が専任指導医としての研修の責任を負う。
- (2) 病棟では、主治医の一員として入院患者の治療に従事し、術前・術後管理を実際に行い、基本的整形外科手術手技を取得する。
- (3) 外来では、新患の病歴聴取、診察、所見の記載を担当し、外来処置を行う。

3. 研修指導責任者 進藤 裕幸

4. 研修内容

整形外科疾患(外傷、骨関節疾患、脊椎疾患)を診断し、治療計画を立案し実施する。また、整形外科外来における基本的な救急処置を研修する。

5. 研修到達目標

5-1 行動目標

- (1) 患者、家族との信頼関係に基づいた、人間関係を確立し、整形外科的疾患の診断と治療を行う。
- (2) 医療チームの一員としての協調性を身につけ、協力して患者の治療にあたる。
- (3) 患者の問題点を適切に判断し対応することのできる能力を養う。
- (4) 障害者の社会的、心理的側面へ配慮し、患者のQOLを考慮にいたった診療計画を作製する。

5-2 経験目標

- (1) 運動器救急疾患・外傷に対応できる基本的診察能力の修得
 - ①骨折に伴う全身的・局所的症状を述べることができる。
 - ②脊髄損傷の症状を述べることができる。
 - ③多発外傷の重症度及びその優先検査順位を判断できる。
 - ④神経・血管・筋腱損傷を診断できる。
 - ⑤骨関節感染症の急性期の症状を述べることができる。
- (2) 慢性運動器疾患の重要性と特殊性について理解・修得する。
 - ①変性疾患を列挙してその自然経過、病態を理解する。
 - ②関節リウマチ、変形性関節症、脊椎変性疾患、骨粗鬆症、腫瘍のX線、MRI、造影検査像の解釈ができる。
 - ③上記疾患の検査、鑑別疾患、初期治療方針をたてることができる。
 - ④腰痛、関節痛、歩行障害、四肢のしびれの症状、病態を把握できる。
 - ⑤リハビリテーションの処方が理解できる。
 - ⑥病歴聴取に際して患者の社会的背景やQOLについて配慮できる。
- (3) 運動器疾患の正確な診断と安全な治療を行うためにその基本的手技の修得
 - ①主な身体計測 (ROM, MMT, 四肢長、四肢周囲径)
 - ②疾患に適切なX線写真の撮影部位と方向の指示
 - ③骨関節の身体所見と評価
 - ④神経学的所見と評価

- (4) 運動器疾患に対して理解を深め、必要事項を医療記録に正確に記載できる能力の修得
 - ①運動器疾患に対して正確に病歴が記載できる。
 - ②運動器疾患の身体所見が記載できる。
 - ③検査結果の記載ができる。
画像(X線, MR I, C T, シンチ, 脊髓腔造影)、血液、尿、関節液、病理組織
 - ④症状、経過の記載ができる。
 - ⑤診断書の種類と内容が理解できる。
- (5) 整形外科的処置の修得
 - ①局所麻酔法
 - ②創傷処置
 - ③新鮮開放創に対する処置
 - ④骨折、脱臼、捻挫、靭帯損傷に対する初期治療
 - ⑤感染創の処置

外科6(整形外科)

	月	火	水	木	金
7:00					
8:00	抄読会	モーニングレクチャー			
9:00					
10:00	外来診療	手術	外来診療	手術	外来診療
11:00					
12:00					
13:00					
14:00					
15:00	教授回診	手術		手術	
16:00			病棟診療・検査		病棟診療・検査
17:00		病棟診療		病棟診療	
18:00	医局会				
19:00					
20:00					
21:00					

